

2020年6月 第65号

三重県労働組合総連合
〒514-0015 三重県津市寿町7-50
みえ平和と労働会館
TEL 059-223-2615 FAX 059-223-4495
http://mieroren.labornet.jp/

みえ労連

zenroren



新型コロナに 人類は負けない

6病院で院長が応対

新型コロナとたたかう7病院、厚生連病院に マスク一万余枚贈呈



市立四日市病院 5月13日
一宮院長、川島看護部長、加藤事務長
伊世(あした葉代表)、芳野(北勢労連)
亀井(市立四日市病院労組)



県立総合医療センター 5月14日
新保院長、小倉事務局長
伊世(あした葉代表)、芳野(北勢労連)
森(自治労連)



松阪市民病院 5月14日
桜井院長、総婦長、部長
新家(自治労連)、長谷川(自治労連)
松田(松阪・多気社保協)



組合立紀南病院 5月14日
加藤院長、事務長
新家(自治労連)、長谷川(自治労連)
笹の内(みえ自治体一般)



国立病院医療機構
三重病院 5月15日
藤澤院長、岩崎庶務班長
藤井(医労連)、木村(医労連)
高岡(みえ労連)



国立病院医療機構
三重中央医療センター 5月18日
田中院長、前田庶務班長
臼井(みえ労連)、新家(自治労連)
木村(医労連)、高岡(みえ労連)



伊勢赤十字病院 5月19日
中村総務課長、竹野庶務係長
中村(医療介護ネット)、岡(日赤労組)
西岡(南勢労連)

三重の地域医療・介護をよくする ネットワーク結成 2020年5月10日



結成総会 5月10日 三厚労事務所にて

手始めにマスク一万余枚を感染症指定の県内7病院と厚生連病院に贈呈しました。マスクはどこでも歓迎され、三重病院や三重中央医療センターでは「感謝状」をいただきました。

「よくするネット」では今後八つの地域医療調整会議座長との懇談を順次行い、地域や住民の声を反映するアンケートなどに取り組み予定です。

5月10日、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、「三重の地域医療・介護をよくするネットワーク」が三厚労事務所にて結成されました。三密を避けるため出席人数を絞り、初めてZOOMを活用しネットでも双方向にやりとりをしました。

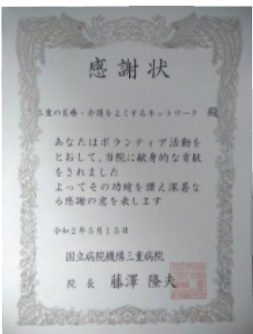
新型コロナウイルスへの感染の予防・治療のために医療体制の確立、暮らしを支える介護サービスなどの継続、未曾有の経済的危機など、広範な脅威に立ち向かい、県民のいのちと暮らしを守るために、医療・介護分野の関係者はもちろん、様々な分野の団体・個人が手をつなぎ、共同して危機に立ち向かいます。

いただいたマスクは以下のJA三重厚生連病院に届けました。ありがとうございました。

- 松阪中央総合病院/鈴鹿中央総合病院
- 三重北医療センター菟野厚生病院
- 三重北医療センターいなべ総合病院
- 大台厚生病院/南島メディカルセンター
- 鈴鹿厚生病院

理事長からさっそくお礼の電話がありました。

三重県厚生連労組
執行委員長
畑中剛喜



三重病院でいただいた感謝状



三重中央医療センターでいただいた感謝状

8地域の医療調整会議座長 医師会長との懇談にとりくみます

緊急事態宣言解除後ただちにアンケート活動を開始します

コロナ問題で県内の医師・看護師不足が浮き彫りになった。医療政策のもうけ主義を改め、医療関係者がしつかり働けるよう住民とともに運動していきたい。

伊世利子書記長

- ① 県内どこでも、いつでも安全・安心な医療・介護を求めて、住民の声を反映するアンケートにとりくむ
- ② 地域での医療・介護ネットワークの活動を支援し、地域ごとのシンポジウムや学習会の開催、県内の交流を兼ねたシンポジウムや交流会を開催する
- ③ 県内7つの感染症指定病院等への1万枚マスクの寄贈、などを決めました。

三重の地域医療・介護をよくするネットワーク 結成総会(5月10日)での発言より

医療崩壊の危機の原因に自民党政権の医師数抑制や医療費削減がある。感染症病棟が全国で1995年の9974床から2018年の1882床まで削減され、三重では24床まで削減された。保健所の削減がPCR検査の増えない要因のひとつになっている。

県厚生連労組 畑中剛喜委員長

会の当面の行動を、みえ労連・高岡秀基事務局長が提案しました。

新型コロナウイルスの広範な脅威に立ち向かい、県民の命とくらしを守るため、医療・介護分野の関係者はもちろん、さまざまな団体・個人が手をつなぎ、共同して危機に対応する必要があると確認。

当面の活動として、

- ① 新型コロナウイルスによる医療・介護を崩壊させないよう必要な調査と申し入れの実施
- ② 8つの地域医療調整会議座長との懇談
- ③ 「県内どこでも、いつでも安全・安心な医療・介護」を求めて、住民の声を反映するアンケートにとりくむ
- ④ 地域での医療・介護ネットワークの活動を支援し、地域ごとのシンポジウムや学習会の開催、県内の交流を兼ねたシンポジウムや交流会を開催する
- ⑤ 県内7つの感染症指定病院等への1万枚マスクの寄贈、などを決めました。

新型コロナウイルス対策が有効に動かない原因は、安倍政権の「社会保障・税一体改革」にある。地域医療構想の検討が始まった2015年度より、医療関係労組は共同の取り組みを展開してきた。これまでに三重県との懇談・調整会議の傍聴などを行い、県の担当者も招いてのシンポジウムやつどいなどを展開してきた。これからも労組間の連携を大切に、地域医療の充実めざし取り組みを強化したい。

みえ自治労連 新家忠文委員長

コロナのもとでも 多彩なとくみ

コロナを理由に廃業・解雇は許さない 南勢ユニオン

コロナ危機を理由に伊勢市の大屋タクシーは廃業し全従業員を解雇すると通告しました。突然の解雇に従業員は「奈落の底に突き落とされた思い、暮らしていけない」と話しています。

南勢労連（池田議長）、南勢ユニオン（奥野書記長）は5月8日、大屋タクシーに解雇の回避を要請しました。この要請行動はテレビや新聞で報道されました。



会社には退職金制度もなく、解雇するに当たっては1円の生活保障も出さないという冷たい態度です。組合は解雇の回避を求めましたが、会社は応じません。組合はどうしても廃業すると言うなら営業権を他社に譲渡して、その売却益を社員の生活保障に回せと主張して粘り強く交渉を続けています。

検察庁法改正反対 街頭アピール 鈴鹿市民の会



コロナ禍のどさくさにまぎれて検察庁法を改正しようとする安倍政権にツイッターなどで批判が高まりました。5月19日、鈴鹿市民の会（山本あけみ代表）は、市内目抜き通りで横断幕をかかげてアピール。鈴鹿労連組合員も宣伝に参加しました。

ZOOMで会議 みえ教育ネットワーク



5月16日、みえ教育ネットワーク（大原敦子代表）は、定例の運営委員会を、はじめてZOOMを使って行いました。休校が続く中、非常勤講師など職場の非正規労働者の給与補償が行われているかなど、対面での会議と変わらぬ真剣な議論が行われました。全国学力テストは中止になったのに、三重県教委が「スタディチェック（三重県版学力テスト）」を各学校に送りつけてきたことに対し、「こんな時にまだやるっちゃうんか」という怒りの声が紹介されました。

ひよこ会理事長から保育士・調理員への心あたたまるメッセージ

ひよこ会労組おおばこ

社会福祉法人ひよこ会は、組合（是枝委員長）が要求していた「特別休暇」に対し、

1. 正規職員、パート職員および嘱託職員に4/20～5/31までの期間に「特別休暇」を付与する。付与する日数は以下の通りとする。
 - ① 正規職員および週5日勤務のパートおよび嘱託職員：7日間
 - ② 週4日以下のパートおよび嘱託職員：4日間
 （ただし、登園児数の変化により付与する日数は変化することがある）

2. 4/20～5/31までの期間における休暇が「特別休暇」の日数を超える場合には、有給休暇などを取得するものとする。
3. 今回の「特別休暇」については、就業規則には規定されていないため、就業規則を改定し、災害等による「特別休暇」の規定を設ける。と回答しました。（4月30日）。

回答書の冒頭、伊藤一弥理事長は「新型コロナウイルス感染症が拡大している中、社会の基本インフラの一つである保育事業の継続にお力添えをいただき大変ありがとうございます。熱や咳などの症状が出ていない方でも感染者がいるという報道もある中、『三密』が発生しやすい職場において、感染の恐怖を感じながら勤務していただいている点、心よりお礼申し上げます。」と職員に対して心温まるメッセージを寄せました。

《編集後記》 緊急事態宣言が解除されました、来るべき第2波、第3波に備えて、医療・介護の備えを整えるのは今です。医療関係労組への期待が高まります。（よ）